



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 23 | Issue 1 | September 2019

今号では...

- ▶02...IBディプロマの結果—2019年7月
- ▶03...ようこそ、新しいスタッフの皆さん
- ▶03...学習奨学金
- ▶07...K2B Life is a Circle
- ▶08...KIST生が美術賞を受賞
- ▶12...PowerSchool Learning
- ▶14...KISTオーケストラ徳島訪問
- ▶16...GaOnの研究論文出版について
- ▶16...Wall of Honor 2018-19
- ▶17...社会・情緒的発達トレーニング
- ▶20...KIST保護者会(CA)
- ▶22...卒業生大学合格実績

「私の人生を変えられるのは私だけ。他の誰にもできないわ。」
—Carol Burnett

学校長より

KISTコミュニティの皆さん、



KIST新学年が始まりましたね！夏休みはいかがでしたか？

私は新学年が始まり、生徒達が笑顔で登校している姿を見られるのが非常に嬉しく、残りの1年がとても楽しみです！また、Parent Welcome Nightはお楽しみいただけただしょうか。皆さんがお持ちだった生徒達の学習内容などの疑問にお答えできていれば幸いです。

Parent Welcome Nightでお伝えしたように、2018-2019年度の卒業生が再びKIST DP平均点を更新しました。今年の平均は39.2点でした。しかし、この数字が示すのは歴代最高点ということだけではありません。生徒達の努力、忍耐力、粘り強さ、強い意志、そして周りのサポートの表われです。この数字は生徒達の自信になり、夢を追いかける原動力になります。彼らの可能性の表われだと考えています。

このような生徒の努力に加えて、ご家族や先生のサポート、粘り強さがあれば、KISTの生徒は様々な夢を実現できます。例えば医者、弁護士、エンジニア、作家、画家になることも、MBAの取得も不可能ではありません。

一見ただの数字だと思われてしまう39は生徒達の努力、強い意志、忍耐力、周りのサポート、そして未来の可能性の表われです。引き続き生徒が自らの才能・実力を最大限に発揮できるよう、サポートをよろしく願いいたします。

敬具

Kevin Yoshihara
Head of School



KIST 2019 IB Diploma Programme Results

Average DP points attained:

39

43% of our students scored 40 points or more!
Way to go KIST class of 2019!

重要な日程



2019年9月

- 13 (G11-G12) Kanto Plain College Fair 2019
- 16 School day
- 16 MYP Information session for G6 and new parents
- 20 Staff development day (No school for students)
- 21 (G9-G12) KPASS High School Drama Festival
- 23 School holiday
- 24-25 School photographs
- 24 PYP Information session for new parents

2019年10月

- 3 (G5) Day camp
- 5 SAT@KIST
- 10 (G9-G12) KPASS High School Brain Bowl
- 12 School Explanation Day (for prospective Elementary parents)
- 14 School day
- 14 School Explanation Day (for prospective Secondary parents)
- 14 (G8) MYP Community Project information session
- 14 2020-2021 enrollment applications open
- 16 (G10) PSAT tests
- 18 (G6-G8) KPASS Middle School Drama Festival
- 22 School holiday
- 25 KISTival preparation day (K1-G5) No school for students (S) School day



IBディプロマの結果—2019年7月

KISTの“2019年度卒業生”のDiplomaの結果は、KISTの最高平均点であった2017年のものよりも1.2点も高い、39.2点という平均点を記録しました。2019年度卒業生のうち1名が世界でも0.25%しか達成できない45点満点を取得しました。過去五年間のDiploma結果は以下表にまとめてあります。

Year	KIST DP average	DP world average	Highest KIST score	KIST G12 Graduates	KIST G12 Diploma Graduates	% of students in full DP	# of Diplomas attained	% that attained Diploma
2019	39.2	29.6	45	37	35	95%	35	100%
2018	37.8	29.8	44	38	34	89%	34	100%
2017	38.0	30.0	43	37	35	95%	35	100%
2016	36.6	30.1	43	38	37	97%	36	97%
2015	35.9	29.9	45	29	28	97%	26	93%

2019年度卒業生に関する特記事項として：

- 世界的にフルディプロマ履修者は52%であるのに対し、KISTでは学年の37名中35名(95%)がフルディプロマを履修しました。
- 世界的なフルディプロマ取得者が77%であるのに対し、KISTではフルディプロマ履修者35名中35名(100%)がIB Diplomaを取得しました。
- IB Diplomaを取得したKIST生の平均点は39.2でした。これは世界平均である29.6点をほぼ10点も上回っています。
- 世界的には、40点以上を獲得するのは全体の7%に過ぎないのに対し、KISTのIB DP取得者のうち15名(43%)が40点以上を達成しました。これら15名はKIST “Learning for Life” University Support Scholarships (大学進学奨学金)の対象となります。
- 1名が、世界的には0.25%しか達成できない45点満点を取得しました。
- 4名が44点、1名が43点、3名が42点、2名が41点、4名が40点を取得しました。
- IB Diplomaをを取得したうち、46%の生徒がG6以前からKISTに在籍しており、これらの生徒は平均で40.1点を取得しています。この統計結果はKISTのPYP及びMYPの学習の質を反映していると考えます。

右のはKISTのコースごとの平均点 (IB Diploma取得者から算出) とIB世界平均点との対照表です。

- KISTで提供されたコースの100%でIB世界平均を超えた点数が取得されました。
- 提供されたコースの93%(緑及び青のもの)ではIB世界平均を0.5点以上上回る点数が取得されました。
- 70%のコース(緑及び青のもの)でIB世界平均を1点以上上回る点数が取得されました。

詳しいIB Diplomaの結果及び統計は以下“Statistical Bulletin”からご覧いただけます。

Web <https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/diploma-programme-statistical-bulletin/>

素晴らしいIB DP結果を達成した2019年度卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんが進学した大学でも引き続き成功を収められることを祈っています。



Hiro Komaki
DP Coordinator

Course	KIST DP Course Average	IB DP world average for 2019	+/- over IB DP world average
English A L&L HL	6.00	4.96	1.04
English A L&L SL	5.58	5.07	0.51
Japanese A L&L HL	6.17	5.91	0.26
Japanese A L&L SL	6.00	5.55	0.45
Japanese B HL	7.00	6.12	0.88
Japanese B SL	6.75	5.06	1.69
Japanese AB SL	7.00	5.02	1.98
Spanish AB SL*	5.50	4.96	0.54
Business Management HL*	6.00	4.79	1.21
Business Management SL*	7.00	4.75	2.25
Economics HL	6.17	5.08	1.09
Economics SL	6.30	4.65	1.65
Geography HL	5.67	5.17	0.50
Geography SL	6.00	4.77	1.23
History HL	5.63	5.05	0.58
Biology HL	6.60	4.33	2.27
Biology SL	5.42	4.17	1.25
Chemistry HL	6.20	4.50	1.70
Chemistry SL	6.75	4.00	2.75
ESS SL	6.33	4.14	2.19
Physics HL	6.33	4.64	1.69
Physics SL	6.33	4.03	2.30
Math HL	7.00	4.68	2.32
Math SL	6.68	4.18	2.50
Math Studies SL	6.90	4.16	2.74
Visual Art HL	5.14	4.26	0.88
Visual Art SL	5.00	3.76	1.24

*Pamoja Educationで履修・学習された教科

ようこそ、新しいスタッフの皆さん



2019-2020年度の新スタッフをご紹介します。KISTに新しく加わった仲間をどうか歓迎してください！

教員



Andrew Archibald
DP/IGCSE/MYP
English



Abigail Child
DP/IGCSE/MYP
English



**Mahipaul (Ron)
Dayaram**
DP Biology, IGCSE/
MYP Science



Bernard Knuchel
DP/IGCSE Business,
Economics

教員



Thomas Waterfall
University Guidance
Counselor/Teacher



Pei Yi (Jenny) Wu
DP ESS,
IGSCE Science



Nataliia Chernenko
ELS Instructor
(Secondary)



Kanoka Furukoji
Teacher-Trainee I&S
(Secondary)



Hema Teja Yadavalli
Laboratory and Library
Assistant (Secondary)

教育サポートスタッフ

学習奨学金

KIST 'Learning for Life' University Support Scholarships

KIST 'Learning for Life' University Scholarships はDP最終試験で40点以上を獲得し、受賞基準を満たした12年生に贈られるものです。本奨学金は在籍最終学年での生徒の努力を称え、「生涯学習者」として第3次教育へと進む生徒たちを支援するために設けられました。



2019年度の 'Learning for Life' 奨学金受賞者は合計**15名**です。受賞生、そしてご家族の皆さん、おめでとうございます。皆さんの成功と発展をお祈りします！



Gold Award
45 points
¥2,000,000
1名



Silver Award
43-44 points
¥1,000,000
5名



Bronze Award
40-42 points
¥300,000
9名



学習奨学金の詳細と応募方法については以下をクリックしてください。
<http://www.kist.ed.jp/ja/node/254>

理事長よりご挨拶

長い夏休みを終え、2019-2020年学校年度がいよいよ始まりました。皆様はどのような夏をお過ごしでしたでしょうか。私は1年間の学校長代理の任務を終え、本日は創業者/理事長として、ご挨拶を申し上げたいと思います。

皆さんすでにご存じと思いますが、2019年度卒業生のDPファイナルグレード平均点は39.2点でした。この素晴らしい結果を努力して成しえた生徒たちを非常に誇りに思うと同時に、教職員や保護者による熱心な指導やサポート無しでは39点という大変素晴らしい平均点を達成することは出来なかったと思っています。世界規模で生徒たちが成功するように育てていただき、同時に生徒たちの将来の成功への道を開く手助けをして下さったことに心から感謝申し上げます。

未来のKIST卒業生のことを考えるとき、現在のエレメンタリースクールとセカンダリースクールの生徒の笑顔を見てみると、生徒がグローバル社会で成功する大人になるようなレベルの高い教育を生徒に与えたいと、私が強く望んだ理由を思い出します。しかし、私がなぜその目標を大切に考えているかを言葉で説明することは、時に難しい場合があります。

先日、全スタッフを招き、昨年の生徒に対する貢献への感謝と今年一年の生徒を成功へ導くための協力を願い、パーティーを開催しました。その時に行われたスピーチの一つが、私の思いを明確に表現してくれたことに深く感動しました。

スピーチの中で、彼はこの夏休みの間に彼の子供が優秀な歯科医から治療を受けたことから、自分の子供が歯科医になるのもいいかもしれないと初めて考えたと言いました。歯科大学への入学と成功は、中学や高校で非常に高いレベルの教育受け、高い学力と時間管理、規律を備えなければならないと思っていた彼は、彼自身が若い頃はこのキャリアへの道は考えもしなかったとのことでした。しかし、彼の子供たちはKISTで勉強しているので、大学や大学院、将来のキャリアに関して、より多くの可能性を持っていることに気づいたと話してくれました。

私にとってこの話はとても印象的でした。なぜなら、すべての生徒にレベルの高い教育を与えたいという強い思いとその理由を本当に表していると感じたからです。時には「なぜKISTでは生徒全員が難度の高いプログラムで勉強しないといけないのか？なぜ一部の生徒はより簡単な勉強のコースを選ばないのか？」と聞いてくる保護者がいます。私たちがKISTの全ての生徒が最終的にDPで学習する必要があると強く思う理由は、彼がスピーチで述べたように、最終的にどんな道を選んでも、全てのKIST生に将来の可能性のドアをできるだけ開けてあげたいという思いからです。

新学年度を迎え、私は今まで以上に希望に胸を膨らませています。なぜならば「高い教育を提供し、生徒たちの将来の成功への道を開く」というKISTの目的に賛同する、生徒や保護者、そして教職員が益々増えてきていると実感しているからです。私たちはKISTという同じボートに乗っています。同じ方向にオールを漕ぐメンバーが多ければ多い程、目的に向かって力強くボートは進むことができます。

改めまして、昨年より引き続き在籍されている皆様へ、今までの総ての努力と貢献に対し心から感謝を申し上げます。そして、今年度より入学されたご家族や新任の教職員の方々も含めて、今後も引続きKISTの生徒の成功を目指し、高い目標に向かって一緒に取り組んで行けることを願っています。

それでは、今年一年もどうぞ宜しくお願いします！

Yoshishige Komaki
Board President



エレメンタリースクールニュース

行動するということ

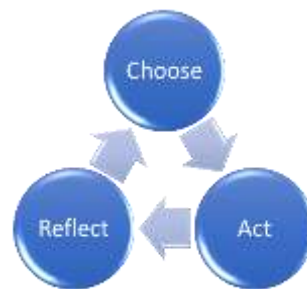
IB校として、KISTでは行動するというを重視しています。DPではこの「行動」をCreativity、Activity、Service (CAS)、MYPではService、そしてPYPではActionと呼んでいます。PYP校では「全ての学習者に行動するという選択肢や機会を提供し、世界によりよく変えるために、その行動を振り返ることを促す」(IBO、2009)ことにより、この「行動」という要素を満たしています。

Action「行動」とは何なのでしょう?もちろん私たちは行動するというの意味は承知していますが、これにはもっと深い意味があります。「行動」には私たちのものの見方、考え方も含まれます。「行動」とは、これまで学んだこと活用し、意味のある貢献をしたいという意志のことだと私は考えます。行動とは私たち自身のあり方の一部であると思っています。例えば、「行動」の一例として、ある生徒が節電のために毎日こまめに家の電気を消したり、エアコンの温度設定を確認するといったことがあげられます。

「行動」とは単に毎日行っていることという以上の意味があります。私たちの態度や“どのように行動に移すか”ということが含まれています。行動に移す前に、私たちは自身の行動が周りに与える影響についても熟慮しなければなりません。誰かの生活と、社会をより良くするために意義ある行動をする機会は無数にあります。

- 誰かのためにドアを開ける
- 洗濯をしてくれる親への感謝を表す

- 必要としている人に電車やバスの席を譲る
- 周りの人を誉める
- 風で倒れた誰かの自転車をおこす
- ゴミを拾う



できることはいくらでもあります!

あなたはどんな「行動」をとりますか?

私たちには親切な行動によって世界をよりよく変えていける力があります。人間はすべて周囲に影響を受けており、そういった意味では環境の産物であるといえます。そして皆さんのお子さんもその一人です。大人として、そして親として、私たち自身が周囲に思いやりを持って行動し、子どもたちの模範となることで世界をより良い場所にしていけるでしょう。子どもたちがこのような行動をとることを学べるのは、私たち周囲の大人たちからなのです。



Kevin Yoshihara
Elementary School Principal

Reference:
International Baccalaureate Organization. (2009). *Making the PYP happen in the classroom: A curriculum framework for international primary education*. Cardiff: International Baccalaureate Organization.

PYPニュース

新学年へようこそ

2019-2020年は皆さんにとって、多事な年になるのではないのでしょうか。KIST新校舎建設や東京オリンピック、とても賑やかになりそうで既にワクワクしています。また、私自身は今年よりPYPコーディネーターに就任し、変化の1年になりそうです。カリキュラムの変更点が少々ありますが、KISTの素晴らしいスタッフにより変わらず良い教育をお届けすることができると信じています。

今年エレメンタリーでは新しい数学カリキュラムが導入されます。K2~G5はピアソン・アバカス数学プログラムを、さらにG5は外部より採点される数学と英語のEdexcel試験を受けます。日本語のカリキュラムにおいても、更に生徒の日本語を伸ばすために少し変更点がございませう。

PYP校としてKISTでは国際バカロレアの哲学に賛同し、考える力を育む教育を引き続き行っています。生徒には積極的に自らの教育に参加してもらいたいという願いから、授業で学んだことを鵜呑みにせず、生徒には世界を自らの目



で見、知識を応用した上で独自の考え方を形成することを促進しています。私自身KISTではこの哲学をうまく実践していると思い、今後更に力を入れていきたいと思っています。

新学年はワクワクするものであり、私も皆さんに会えることをとても楽しみにしています。今年は9月24日、火曜日にPYP説明会を行います。PYPについて詳しく知りたい方や今年のプログラム変更点について知りたい方はぜひお越しください。



Oliver Sullivan
PYP Coordinator

イベント: PYP説明会
日時: 9月25日(火曜日)
18時~19時半
場所: マルチパーパスルーム(MPR)

幼児教育ニュース

幼稚園の皆さんこんにちは。

ご入園されました方、おめでとうございます。そして、新しいクラスで過ごしている皆さんは、楽しい夏休みを過ごされましたか？

K. International School Tokyoの幼稚園には年少組から年長組まで6クラスあり、100名以上の子ども達があります。今年度は教育スタッフの異動はなく、18名全員が昨年と同じ学年で指導をしています。そして、各学年、各クラスに3名の教育スタッフがあり、それぞれのクラスにKISTで5年以上勤務している者がいます。幼稚園の教育スタッフは11か国よりこの職に就いております。

最近、私は子どもの発達についての本を何冊か読んでいますが、たくさんの方が幼稚園時代の3歳から5歳が子育てをする時期にあたり難しさを感じ、専門機関に相談をしているという事です。3歳は自我の成長に伴う、第一反抗期でもあり、なんでも自分でやりたいことからくる、自分でやる！いやいや！期であります。また、5歳から6歳は小学校入学を前にした時期であり、子どもだけでなく、保護者の方も緊張するときであります。

このように保護者の方や、私達、教育スタッフが子どもとの関わりの中で、難しいと思うときは、子ども達が成長発達しているからこそとのことでした。このように成長発達していく子ども達のために、学校では子ども達にとってより良い環境を整えていけるよう心がけ、そして、今年度も皆様の協力のもと学んでいけたらと思います。

Eri Ozawa

Early Childhood Coordinator
(K1-K3)/K1B Teacher



K1A

K1B



K2A



K2B



K3A



K3B

K2A、みんなが違うことはいいんだよ！



多様な教室とは、生徒と教師が共にお互いを人種、文化、宗教問わずに受け入れることであり、新年度において学ぶことがとても重要なテーマです。

「私たち」のユニットにおいてK2Aの生徒は人間の体は何ができていて、それぞれの個性について学びました。コミュニティーサークル授業内の新しい始まりをテーマとした回では、生徒は個々の違いを歓迎するMem Foxの'Whoever We Are'を聞きました。

クラス全体としては、目や肌、将来の夢がそれぞれ異なることについて話しました。その後、生徒達はいろいろな色の絵の具を混ぜ、自分の肌の色を作り、自画像を描きました。自画像を描いている間はお互いになぜ肌の色が違うのか、そして自分の好きなところを互いに話しました。生徒達はお互いに高い興味を示し、それぞれの個性について話していました。新しい環境に入り、友達作りをしている時間にこのようなテーマを設けることは非常に大切です。

Catherine Wells
K2A Teacher



K2B Life is a Circle

去年、最後の探求単元は"Sharing the planet"でした。K2の生徒は生き物と、生きるためには何が必要なのかについて勉強しました。探求の一部として、2018年の始めに数匹のカブトムシの幼虫を一年間かけて育てました。クラスのペットが赤ちゃんから幼虫、立派な大人のカブトムシへと育っていく過程を生徒は見てきました。生徒はカブトムシが健康に育つにはどのような環境で何を必要とするのかを学びました。しかし、ライフサイクルが一周回り終える前に学校が終わってしまったのです。

そして今年8月に元K2の生徒は三ヶ月ぶりにカブトムシたちに会いに行きました。生徒はカブトムシが自分の赤ちゃんをもっていたのに気づき、驚きました。人生のサイクルは円であり、つながっていて、繰り返していることが理解できたのです。K3になった生徒はこれからのカブトムシの友達になるK2の生徒にどう世話をしたら良いのかを優しく説明してあげました。これに対してK2の生徒はK3の生徒のケアと努力に感謝し、自らも全力を尽くして育てると約束しました。そしてまた新たなサイクルが始まりました。



Axel Norwood
K2B Teacher



This article was translated by Kaoru (G11A).
この記事は G11A Kaoru が翻訳しました。



エレメンタリーELS

詩歌がもたらす機会

お子さんの 2019-20年度の始めは詩歌の学習から始まっている、もしくは近いうちに学習するのもかもしれません。詩歌はPYPでは非常に人気のあるリテラシーの授業です。その理由は多くあるのですが、最大の理由は、英語がまださほど流ちょうでない生徒であってもあまり煩わしい思いをせず、楽しく自己表現をする方法であるということです。詩を書くことで、他の方法では煩雑に感じたり、困難に感じ、書かない、または触れないで済ませようとする思いを短い言葉で表現でき、さらにはそれにより生徒が自信をつけることができるのです。

詩歌は教師やELSインストラクターが類語辞典の使い方などの指導や、生徒の語彙拡大、文章パターンや品詞の認識や構成のために一対一で関わるのに最適な題材です。

また詩歌の単元は保護者の方にとってもお子さんが母国語で詩を読んだり書いたりすることで言語能力を更に伸ばすことができる機会でもあります。母国語でのしっかりしたリテラシー能力は学校での英語の学習にも活かされます。

KISTに新たに入学された皆さんは、母国語が英語学習の強化にどのような効果をもたらすかに関心をお持ちかと思えます。是非お子さんの担任もしくは私に“English as an Additional Language (EAL) Family Support”(Bonnie Campbell Hill, 2001)、という記事についてお問い合わせください。

Rachel Parkinson
ELS Coordinator (Elementary)/G5 ELS Instructor



G5BのAinaとRikoがクラスのみんと共に、自分が強く感銘を受けた詩について話し合っています



左から時計回りに: G5BのMadhav、Nonoka、NaohisaとSaraがちょうど書き上げたばかりの折句を清書しているところ



左から時計回りに: G5AのAbhinav、Jessie、HirokiとAvniが自作する前にdiamante poem (ダイヤモンド型になるよう構成する7行詩)について議論しているところ

KIST生が美術賞を受賞

Weizhao (K3B) が韓国美術教育協会主催の第84回世界子ども美術会議 (World Children's Art Conference) でGrand Prizeを受賞しました。授賞式は7月3日にソウルで開催されました。彼は5歳の部で最優秀賞を受賞しました。更に、日本住友生命主催の第43回子ども絵画コンクールでも優秀賞 (Award for Excellence) を受賞しました。こちらの授賞式は東京で8月24日に開催されました。

Weizhao、受賞おめでとうございます。これからもWeizhaoのアートのセンスが更に磨かれていくことを楽しみにしています。



Weizhao、住友子ども絵画コンクールの賞状と一緒に



エレメンタリー生徒ケア

エレメンタリー生徒ケアコーディネーターの役割

新学期へようこそ！ご家族で素敵な夏休みを過ごせましたでしょうか？

今年よりKISTコミュニティに加わった皆様、初めまして、エレメンタリー生徒ケアコーディネーターを務めているKana Furnivalと申します。

コーディネーターを務めるにあたり、私は以下3点に取り組んでいます。

1. 生徒の教育ニーズに関してスタッフのサポートを行う

人には異なるニーズや能力があり、KISTでは全生徒に合った教育を届けるため、授業内容やアクティビティのレベル、難易度を調整しています。このプロセスはdifferentiationと呼ばれており、ホームルーム教師により事前に計画されています。計画を同学年の教師とも共有することでサポート体制を強化しております。私はこれらのサポート及び生徒の成長を記録・管理しております。

2. 生徒の社会性、感情、精神面のニーズに対応するスタッフのサポートを行う

本校では生徒の学業における成長のみならず、将来の成功の妨げになり得る社会的、感情的、精神的課題の対応・予防に努めています。

高い感情・社会的スキルを持っている人は、日常における困難に柔軟に対応できます。これらのスキルは有効的な問題解決能力、自己コントロールや感情のコントロールなどを含みます。コミュニティーサークル授業時間内に実施されているSEALプログラムは生徒達の中で学業及び個人的成功の基礎を作っています。私はこのライフスキルプログラムのデザイン、見直しを行っています。

3. 本校における生徒の福利やパストラルケアに関する情報を保護者の皆様と共有

学校行事、保護者会、コーヒーモーニング等でご提供しています。



今年よりエレメンタリーでは生徒のサポート体制を強化するため、教師に対して新たな学生ケアプロセスを履行いたします。細部にわたり慎重に計画されたプログラムを通してKISTに在籍するすべての生徒がサポートされていると感じられる環境に努めています。

学生ケアに関するご質問がございましたら、ご連絡ください。皆様のお子さんとお会いすることを楽しみにしています！

Kana Furnival
Elementary School Student Care
Coordinator



2019入学説明会

2020-2021年度向け

KISTでは2020-2021年度入学希望者を対象とした入学説明会を回に分けて行います。

アドミニスタッフおよび教師が直接皆さまからの様々な質問(入学手続き、カリキュラム、大学進学、その他学校生活全般について)に直接お答えいたします。

また、学校施設の見学もできます。

エレメンタリー説明会

2019年10月12日(土)

セッションは2部制です:

- (1) English: 9:45 a.m. – 12:00 p.m.
- (2) Japanese: 1:15 p.m. – 3:30 p.m.

セカンダリー説明会

2019年10月14日(月)

セッションは2部制です:

- (1) English: 1:15 p.m. – 3:30 p.m.
- (2) Japanese: 1:15 p.m. – 3:30 p.m.

受付締切は:

2019年10月11日(金)、午後3時

要予約です！

www.kist.ed.jp

LEAPニュース



KIST保護者の皆さん、こんにちは！新しくLEAPコーディネーターを務めます、Miki Kanaiです。KISTコミュニティの皆さんに2019-2020年度LEAP

クラスにご参加いただくのを楽しみにしています！皆さんも私同様、新年度に心を躍らせていらっしゃると思います！私は2018年8月からKISTの職員として勤務していましたが、エレメンタリーには今年から参加している新メンバーです。皆さん、よろしくお願いいたします。今年一年、多くの皆さんとお会いし、知り合えることを楽しみにしています！

KISTに新しく入学された皆さんに少しご説明させていただきます。LEAP (Learning Enhancement Academic Program) とは、英語と算数の基礎的するの強化のため、K3からG5の生徒に始業前と放課後に提供されている授業です。生徒が必要な指導と集中したサポートを受けられるよう、クラスは少人数制で、参加は教師の推薦や診断テスト結果をもとに行います。LEAPは通常授業を困難に感じるかもしれない生徒に対しきめ細かなサポートを提供し、必要なスキルの向上をはかるというKISTにおける重要な役割を担っています。この追加サポートにより、生徒、特に英語学習者は、学習のすべての分野において習熟度をあげ、自信を持てるようになります。



重要なお知らせ

- LEAP授業の開始は9月9日でしたが、まだ、以下リンクからお申し込みいただけます。

Web <https://kisted.sharepoint.com/CA/SitePages/LEAP.aspx>

- 学期中LEAPクラスが提供されない日がございます。LEAPカレンダーで、お子さんの授業がない日をご確認いただけますようお願いいたします。



- 保護者の皆さんにお子さんの授業内容や達成度を詳しくお知らせするためのニュースレターが学期中2度発行されます。
- 始業前英語サポートプログラムへの参加は教師の推薦、診断テスト結果、そして各生徒の学習ニーズを考慮して決定いたします。
- 放課後・算数サポートプログラムへの参加は教師の推薦または/及び診断テストにおいて学年の期待値に到達していない生徒に限られています。
- 放課後・算数発展プログラムへの参加は教師の推薦または/及び診断テストにおいて学年の期待値を超えている生徒に限られています。

皆様の引き続きのご理解とご協力に感謝いたします。今年も皆さんと共に学び、子どもたちのサポートをしていけることを楽しみにしています！

LEAPに関するお問い合わせは leap@kist.ed.jp までお願いいたします。

Miki Kanai
LEAP Coordinator/G1A ELS Instructor



KIPSニュース

2019-20学年度へようこそお帰りなさい！

学校の始まりはお子さんにとっても保護者の方にとっても、わくわくする事です。KIPSスタッフ一同、お子さんの学習への旅の始まりの地にK. International Preschool(KIPS)を選んでくださったことを嬉しく思っております。私達スタッフは、KIPSの多様なサービスを通して良好な環境下でお子さんの成長と発達のサポートを全力でサポートしてまいります。



2018-19年度はとても実り多いものでした！14名がKIPSでの生活を終え、幼稚園生活を新たにスタートさせました。KIPSでの継続的な評価により、発達目標に沿ったお子さんの成長を監督するとともに、政府の定めた基準を満たす事が出来ています。2018年6月にKIPSは東京都が定める「認可外保育施設」としての基準をすべて満たし、認可を受けています。

KIPSはお子さんに質の高い幼児教育を提供し、その先の学校への準備を行っています。多くのお子さんにとって、保育園は最初の「学校」経験であると思います。お子さんにとって将来の学校生活を楽しいものにできるよう、良好な保育環境を提供できるよう願っています。2019-20年度には以下の非認知能力の発達に力を入れてまいります。

- 持久力・がまん強さ(自己管理能力)
- 忍耐力
- 社会性:他者と上手に交流する能力
- 他者への思いやり

子どもたちが他者と協力する事を求められるように、保護者の皆さんにも私達スタッフと協力して下さるようお願いいたします。お子さんの学校生活を成功させるには保護者の皆さんと教師の継続的な協力体制やコミュニケーションが不可欠です。

今年も協力し、素晴らしい一年にいたしましょう！

Stephanie Pae
KIPS Coordinator



セカンダリースクールニュース

2019-20新学年度のメッセージ

お子さんが良い一年のスタート切ることができ、学校で安心して学習を楽しめていることを願っています！

保護者説明会にご参加くださった保護者の皆様には感謝申し上げます。たくさん在校生、そして新入生のご家族にお会いできたことを嬉しく思っています。説明会のプレゼンテーション、そしてメールでもお願いいたしましたとおり、以下文書をご確認いただけますようお願いいたします。

1. Grade Level Curriculum Guides (学年毎のカリキュラムガイド)
2. Updated KIST Progression Criteria and Graduation Requirements (最新のKIST進級基準及び卒業要件)
3. Family Handbook (ファミリーハンドブック)

教育部門のスタッフ及び教師陣はお子さんの学習の成功をサポートするため、そして学習機会や教室内外での課外活動、特にスポーツや音楽を提供するため、来る一年を楽しみにしています。

学習はコミュニティ全体の尽力が必要です。この機会に、保護者の皆さんに以下をご確認いただけますようお願いいたします。

- お子さんの持ち物すべてに名前が記入されていること！
- お子さんがサプライリスト(必要物品リスト)に従い、必要なものを全て持っていること

最後に、プレゼンテーションでお伝えしましたとおり、お子さんに関する質問の宛先について再度確認させていただきます。**最初にご連絡いただくのは、お子さんのホームルームアドバイザーです。**教科に直接かかわるご質問の場合、教科担任宛てにご連絡ください。その後は、私に直接ご連絡いただくのではなく、お子さんの学年のコーディネーターにご連絡いただけますようお願いいたします。以下に、各担当コーディネーターをご紹介したプレゼンテーション時のスライドを載せております。皆、経験豊富で、KISTを良く知っており、お子さん、またはお子さんの学年を指導する、あるいはお子さんの学年をよく知るスタッフです。そのため、適切なサポートをご提供できます。



ことし一年が良い年となることを願うとともに、学校で皆さんにお会いすることを楽しみにしています！

Mark Cowe
Secondary School Principal



Rob White (G6-G8)



John Rose (G9-G10)



Hiro Komaki (G11-G12)

PowerSchool Learning



今年度の始めからKISTでは新しい学習管理システム(LMS)である、PowerSchool Learning (PSL)の試用を開始いたします。2020-21学年度から現在のLMSであるMoodleに代わる利用を検討しています。

今年度に関しては試用期間のため、すべてのコース・クラスでPowerSchool Learningを使用するわけではありません。教科やクラスによってはMoodleやその他のツールを継続して利用します。生徒や保護者の皆様には2つのシステムの平行利用によりご不便をおかけすることになるかと存じますが、PSL完全導入前に保護者の皆さんに新システムに触れていただく貴重な機会となりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

PSLは主に以下の理由から選ばれました。

- これまで8年以上利用してきた学校情報システムや成績管理システムとの統合・親和性
- K-G12の学習管理システムとしての高評価(以前はHaiku Learningと呼ばれていたものです)
- Office365との完全統合・親和性
- **Microsoftパートナーとして**、全体的なITインフラに沿ったものである
- 長期的に見て、コストパフォーマンスが良いシステムである
- KISTの学校環境にあったデザイン、特性を持っている

PSLはKISTにとって有益なツールであると考えており、コミュニティにとってもより良い変化をもたらすと前向きにとらえています。IT部門では、この新しいPSLシステムについて保護者の皆様向けのセッションを10月14日の月曜日開催いたします。当日は祝日であるため、できるだけ多くの保護者の皆様の参加をお待ちしております。

IT Support Team

イベント: Introduction to PowerSchool Learning
日付: 10月14日(月)
時間: 9:00 a.m. – 10:15 a.m.
場所: Secondary Lunch Room

MYPニュース

MYPの生徒たち、希望と情熱で新学期を迎える

8月に新学期が始まり、新たな希望とやる気で満ちあふれた生徒たちが学校に戻ってきました。これからの学校生活で、生徒たちは新しいトピックを勉強し、たくさんの教科の深いところまで追求していくこととなります。



G6Aの生徒たちが夏休みを振り返り、新学期に楽しみにしています。

生徒たちが学業で成功するにあたって、先生と生徒だけでなく、保護者様も覚えておかなければいけない点があります。

学習のための整理

いい習慣と努力はいい結果へと導きます。特に生徒たちに強調したいのは、どのように身の回りの整理をし、どのように学業の管理をするか考えるということです。MYPに初めての、小学校から中学校に入学した6年生はこれからどう整理すればいいのかを考え、7年生・8年生はなにをどう整理していたのか思い出し、引き続き整理することを心がけなければなりません。新学期から整理する習慣をつけることで学業での成功に導かせることができます。

- **宿題ダイアリー (Homework Diary):** 生徒は宿題ダイアリーに毎日宿題を書き込むことを一貫して続ける必要があります。保護者様には、お子様が短期・長期間の宿題を管理できているかを確認することを心がけたいと思います。
- **ロッカー:** MYPの生徒たちは、各自ロッカーを一つ与えられます。必要なものがすぐに取り出せるように、常にロッカーを整理整頓しておく必要があります。
- **バインダー:** 授業でもらったプリントをまとめることはとても重要です。バインダーを使って、もらったプリントなどを管理する必要があります。
- **宿題の規則:** 宿題をする時間と誰にも邪魔されない場所を決めておくと、生徒たちの役にたちます。規則を作り、宿題を早めに終わらせる習慣を作ることによって、成功への道へと繋がります。

MYP生徒ケアコーディネーターのMs. Holdawayの他、各ホームルームの先生も、生徒たちの整理といい習慣作りのお手伝いをしています。



Ayami (G8B) (後ろ列、センター) とボランティア団体

MYPサービス

各MYPの生徒たちは、奉仕活動を求められます。この活動には、各自の計画、実践と振り返りが含まれています。多くの生徒は、学校の中にある奉仕活動のグループに参加していますが、学校の外で奉仕活動を行う生徒たちもいます。地域の手助けはやりがいのある経験となり、リーダーシップスキルを実証することができます。奉仕活動について詳しく知りたい生徒は、MYPサービスコーディネーターの Mrs. Duran と話すことをお勧めします。

LMC/KIST学習サイクル

学校の図書室 (Library Media Center) は学校の中心となっています。生徒たちが勉強、読書、ボードゲーム、クイズなどと有意義な時間を過ごしている姿が見られます。Mr. Tim と Ms. Hema が整理してくれた本、教科書、ウェブサイトは生徒たちの役に立っています。

学年が上がるにつれ、MYPの生徒たちは皆リサーチを基本としたタスクを与えられます。リサーチ関係のタスクは、生徒たちが各自、どのようなスキルが必要なのかを考えられるように構成されています。司書教諭として、Mr. Tim がリサーチプロジェクトを終えるまでの道のりをお手伝いしています。



私たちがどう学業と向き合い、どう人と関わっているかを振り返ることをもう一度考えてみることをお勧めします。これからの一年間、生徒たちとか授業や何らかの形で関わることを楽しみにしています。



Robert White
MYP Coordinator

This article was translated by Alia (G11B).
この記事は G11B Alia が翻訳しました。

KISTオーケストラの徳島訪問

今年のオーケストラ仲間、**Ririka (G11B)**、**Daigo (G10B)**、**Ketan (G9B)**、**Gi Jeong (G9A)**、**Maya (G8B)**、**Waka (G8A)**、**Harunosuke (G9B)**との徳島訪問は忘れられないものになりました。

今回の旅は8月の5日と6日でしたが、良いパフォーマンスを行うために、7月29日から8月2日までに数回のリハーサルを行いました。夏休み中に個人的に覚えたダンスとソロパフォーマンスをもとに、グループとしてのまとまりを目指して練習を行いました。全ての振り付けをしてくれたHarunosukeのおかげで、ダンスはたった数日で形になってきました。

徳島旅行当日、私達は喜び勇んで出発しました。Stella International Schoolのかわいい子供たちとスタッフの皆さんに会い、Tシャツの染めや料理などの活動を楽しみながら子どもたちとよく知り合い、チームとしての協力体制も整いました。

次の日はベストを尽くしてパフォーマンスを行い、多くの子どもたちの笑顔を見ることができたことが嬉しかったです。また、この子どもたちの、新しいことを積極的に学ぼうとする姿勢と柔軟さに感銘を受けました。たった2日ですが、Stellaの子どもたちとオーケストラの仲間たちとの距離がぐっと近づいた気がしました。

食事もとてもおいしくて夢のようでした。このような素晴らしく、忘れられない経験を与えてくださったMrs Duran、Mr Honda、そしてStellaのスタッフの皆さんと子どもたちに心からの大きな感謝をささげます。本当にありがとうございました！

Sehyun (G7B)



運動部最新情報

初秋シーズン開始のスポーツについて



関東地区クロスカントリー

2年目に入った関東地区クロスカントリーには中学生(3.3 km)と高校生(4.4 km)を含め、32名の素晴らしい選手がいます。選手たちは9月から10月にかけて、多摩ヒルズにて4度のレースに参加します。また、Florentコーチに加え、新たにCobbsコーチ、Thomasコーチが加わり、選手たちをサポートします。



関東地区U-18男子テニス

今年から初めて、KISTはテニスにも参加します。Jamalコーチ指導の下、生徒たちは昨年の5月より付近のテニスコートにて練習を始めています。初戦はCAJにて9月19日に行われます。



関東地区MS男子フットボール

9月9日(月曜日)に行われたSaint Mary'sの試合に伴い、すでに選手たちは練習を再開しています。昨年シーズンの4勝(9校中5位)という経験からさらに良い結果を残せるよう頑張ります。また、ホームグラウンドである新小岩で3試合を主催する予定です。ぜひ、生徒、そして保護者の皆様も応援にお越しく下さい。



ISTAA U-18女子・男子バレー、U-14女子バレー

去年に比べ部員は少々減ってしまいましたが、引き続き上記のバレー部は継続されることが決定いたしました。Leeコーチの下、練習が開始されており、9月中旬から後半の試合を予定しています。

全てのチームにとって今年が良いシーズンであることを願っております！

Dennis Ota
Athletics Coordinator



セカンダリーELS

2019-20年度のセカンダリーELSスタッフのご紹介

Jade Bonus

ELSコーディネーター、G8、G10のELS
インストラクター



オーストラリアのメルボルン出身。
英語とメディアの教員資格を取得後、長
年夢であった日本に移り、今年で6年目
になります。KISTには2015年に加入し、
3年間1年生のELSインストラクターとして素晴らしい時間を
過ごさせていただきました。昨年よりセカンダリーに移動し、
今年セカンダリーのELSコーディネーターを務めさせていた
だくことを大変嬉しく思います。

また、今年よりNataliia Chernenkoが新たなELSインストラ
クターとして加入してくれました。Ms. Chernenkoは幅広い
経験と知識を持っており、多くの生徒・教師の力になってく
れると考えています。Ms. Chernenko、KISTへようこそ！

チームとしては、生徒たちと学習することを楽しみにしてお
り、共に学習目標を達成できるように努めてまいります。

ELSに関して質問等ございましたら、
jade.bonus@kist.ed.jpにご連絡ください。

今年度が実りのある1年であることを祈っています。

Michael Davignon

G6のELSインストラクター



KISTには2014年に加入し、そのほとん
どをELSインストラクターとして務めてま
いりました。今年は6年生のサポート、及
びIntensive EnglishとAcademic
Writingを担当させていただきます。

5年間の経験から様々なクリエイティブで楽しい課題、アク
ティビティを用意しています。私のクラスの生徒と会うのを
非常に楽しみにしています。個々の生徒について知り、読
み、書き等のスキルを上達させましょう！

私のオフィスはセカンダリービルの2階、LMCの向かいにあ
るので、お話がある場合はお越しください。皆さんに会うこ
と、勉強することを非常に楽しみにしています。

NEW STAFF!

Nataliia Chernenko

G7、G9のELSインストラクター



ウクライナ出身。

私は大学でヨーロッパと国際法を学び、
この頃から教育及び指導に興味を持ち始めました。世界貿
易機関法について弁論する国際模擬裁判大会に参加した
ことが大きなきっかけとなりました。この際、私たちのチーム
にはコーチがついており、彼女は私たちを信頼し、背中を押
し、常に目標を高く持つことの重要性について教えてくれま
した。その結果、若いウクライナの女の子2人のチームが
ヨーロッパで3位になりました。これを経て次の年は私自身
がコーチになりました。生徒達がどんどん成長し、自信をつ
け、自分の意見を述べ、プレゼンをしている姿を見られたこ
とは私にとってかけがえのない思い出です。

法律事務所に1年勤務した後に、私は修士号を北京で取得
することを決意しました。海外で暮らすことは私にとって自
分の視野を大いに広げ、先生になることを決意させました。
3年間北京にあるIB校で2年生の英語教師として勤めまし
た。最初はとても苦労しましたが、この期間に多くのスキル
を学びました。また、元気あふれる低学年の生徒を教えるこ
とはとても楽しかったです！

私は現在4つの言語を習得しており、日本語も近々話せる
ようになりたいと考えています。読書、旅行、勉強、他の文
化について学ぶことが好きです。様々な国を転々とするの
ではなく、一つの国に長期間住むことで、その国特有のライ
フスタイル、習慣、常識などを学ぶほうが好きです。新しい
空港に到着するときほど楽しい時間はありません。私には
ホームタウンという概念がありません。現在、母はトルコ、
父はロシアに住んでおり、私自身はウクライナ、中国、アメ
リカ、カザフスタンに住んでいました。すべてが私のホーム
タウンであり、日本もこのリストに追加されます。

KISTの一員になれることをとても誇らしく思っています。す
でに周りの皆様にサポートされている実感があり、共に働く
スタッフにも感動しています。素晴らしい生徒、そして尊敬で
きる教師の皆さんと働くことを楽しみにしています。



English

元在籍生GaOnの研究論文出版について

8月1日に以前KISTに在籍していた生徒のGaOnより、2018年のMYPパーソナルプロジェクトを元にした論文「経済的視点から考察したクワンタンゲーム論理」がJournal of Young Investigatorsに出版されると連絡をもらいました。この論文はパーソナルプロジェクト終了後もGaOnを監修していた忠南大学のヌオ教授と共著されたものです。

GaOnは以下のように語っています。



「G10で行ったパーソナルプロジェクトのために僕は様々な論文を読み、クワンタンゲーム論理と非クワンタンゲームより得た結果を比べ、評論しました。論文を書いている間、査読を設け、学生の研究を出版しているJournal of Young Investigatorsのような専門誌に提出、及び出版を目標に掲げていました。そのため、パーソナルプロジェクト終了後は論文を評価、修正に協力してもらえる先生を探すために日本及び韓国の経済、物理の教授にメールを一斉に送りました。しかし、1通も返信をもらえず、大学を实际訪問し、僕は直接教授達に会いに行きました。立て続けに断れられた後に、韓国のある教授が興味を示してくれました。その瞬間、僕は専門家に論文を見てもらい、改善できることを非常にうれしく思いました。共著者である教授のアドバイスを元に多くを学び、改良を重ねました。専門誌に提出した際に、結論の修正を2度お願いされましたが、無事今年の8月に出版されることが決定しました。1つの論文のために2年もかかってしまいましたが、本当に楽しく、濃い、多いに学ぶことができた経験でした！」

GaOnの論文は以下のリンクより閲覧できます。

Web <https://www.jyi.org/2019-august/2019/8/1/a-review-of-quantum-games>

GaOn、本当におめでとう！

Hiro Komaki
Personal Project Supervisor



Wall of Honor 2018–19

学期ごとにG6-8でIB学習者像を体現し、クラスの模範となった生徒を表彰します。この学習者像は意欲ある生涯学習者となるため、生徒たちが長期的な目標としている姿です。受賞者は同級生たちが選出するため、ここで選ばれることは大きな名誉です。

2018-19年度のSemester 2のWall of Honorに選出された皆さん、おめでとう！

Anna Holdaway
Student Care Coordinator (G6–G8)



G6A	Arthur	Balanced
G6A	Aadya	Caring
G6B	Donna	Open minded
G6B	Tomoyoshi	Communicator
G7A	Ryan	Communicator
G7A	Vihan	Risk Taker

G7B	Hina	Open-minded
G7B	Kian	Inquirer
G8A	Shin	Balanced
G8A	Sola	Caring
G8B	Heet	Balanced
G8B	Elina	Communicator

社会・情緒的発達トレーニング

私、そしてMs. Evelynは再びKISTの生徒と生徒ケアオフィスの授業を通して関わられることを非常にうれしく思っています。

引き続き私たちはSecondary Advisory Programの改善に努めており、今年より新たに導入する項目も考えています。今年もライフスキル授業において社会及び情緒的発達教育に力をいれていきます。

Social and Emotional Learning (SEL)は教育業界でも非常に関心が高く、本プログラムを通して、多くの生徒がより幸福を感じていると様々な学校において良好な結果が出ています(CASEL、2019)。学んだスキルは学校を卒業した後も、大学や職場などで活用できます。

現在SELを実施するにあたってCollaborative for Academic, Social, and Emotional Learning (CASEL)を使用しています。右の図はKISTの生徒が1年を通して取得する5つのSELスキルです。



1. 自己認識

自己認識から始めることにより、生徒たちは自分の感情について学ぶことができます。どんなときに嬉しいのか、悲しいのか、怒ってしまうのか。感情に自身をコントロールさせないことを理解した生徒は、難しい状況に陥ったとき、逃げるや戦うことが選択肢だけではないことを学びます。

2. 自己管理

自己認識能力を身に着けた後、自己管理について学ぶこと

ができます。衝動、ストレス、モチベーションなどの自己管理能力が焦点となっています。

3. 社会認識

自分自身を管理・理解できた上で、生徒たちは初めて他人を思いやることができます。他者には異なる視点があることを理解し、多様性を受け入れることができます。

4. 人間関係

他人の感情に共感できることで、良好な人間関係を築き上げることができます。チームワークの際にも効率的に協力し、コミュニケーションを取り、支えあえる関係を保てます。

5. 責任ある行動の実施

自身、そして他者の福祉を気遣える生徒は将来の計画、そしてそれに伴う選択をすることができます。自分の役割、問題の特定、分析、解決、反省方法などを学習することができます。

世界経済フォーラムが発表する必要な10のスキルは全て社会・感情に関するものです。

1. Complex problem solving
2. Critical thinking
3. Creativity
4. People management
5. Coordinating with others
6. Emotional intelligence
7. Judgment and decision-making
8. Service orientation
9. Negotiation
10. Cognitive flexibility



研究によると、社会性や情緒的スキルと論理的思考などのスキルとの関連についても述べています。(World Economic Forum、2018)

保護者の皆様が実践できる5つのSELスキル向上方法 (CASEL、2017)



自己認識

日常にお子さんと彼ら・彼女たちの感情について話してください。会話を通してお子さんの感情を表現する語彙力が豊かになります。例えば悲しいのかを聞くのではなく、憂鬱、イライラ、がっかりしてるのかなど、様々な感情を表す言葉を使い聞いてみましょう。ご家庭で英語以外の言語をお使いの場合も、母国語で感情について学ぶ良い機会になります。

次のページに続く

参考文献:

- World Economic Forum. (2018). *The Future of Jobs Report 2018*. Retrieved August 30, 2019 from http://www3.weforum.org/docs/WEF_Future_of_Jobs_2018.pdf
- CASEL. (2017). *Core SEL Competencies*. Retrieved August 30, 2019 from <https://casel.org/core-competencies/>
- CASEL. (2019). *SEL Impact*. Retrieved August 30, 2019 from <https://casel.org/impact/>

前ページの続き

自己管理

失望、怒り、ストレスなどを発散する王道的な方法は、誰かに話すこと、散歩に行くこと、瞑想、日記を書くこと、絵を描くことなどがあります。誰も完璧ではありません、感情が爆発してしまいそうになった際は正しい対処方法や謝ることを表現するいい機会になります。

社会認識

本を読む際、お子さんに登場人物の気持ちに共感させてみてください。「もし主人公と同じ状況だったらどう思う?」「同じように反応する?」などと聞いてみてください。高学年のお子さんには映画で同様のことができます。

人間関係

お子さんの問題解決能力を発達するために、解決方法を直接教えるのではなく、状況について質問してみてください。例えば、「友達はあの時どんな風感じてたと思う?」「どうしたら許してくれると思う?」などが効果的な質問です。

責任ある行動の実施

お子様がわがままを言うときは、「寒い日にコートを着なかったらどうなる?」「急に約束を破ったら友達はどう思うかな?」など、質問を通して解決を試みてください。

このようなスキルを毎日少しずつ実施することで、お子さんたちのより良い成長に繋がります。また、教師、保護者の皆さんも自身の福祉、心の健康状態を気遣うことを忘れないでください。

KISTでの生徒ケアについて詳しく知りたい方は保護者向けPowerSchool Learningページをご覧ください。

Web <https://kist.learning.powerschool.com/student.care/studentcareforparents/>

Anna Holdaway
Student Care Coordinator (G6–G8)



Staff 10!

今月のStaff 10!では2012年の4月からセカンダリースクールの数学教師として勤務している**Nanami Sakuma**をご紹介します。今年からはこれまでの数学教師としての役割に加え、数学の教科エリアコーディネーターにも就任しました。



KISTの初代校長、Gordon Eldridgeから2019年夏にPrincipals' Training Center(PTC)のカリキュラムリーダーシップの終了証を受け取るMrs Sakuma(左)

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷は東京です。また、第2の故郷と呼ぶのにふさわしいくらい長くオーストラリアのゴールドコーストにも住んでいました。ゴールドコーストは美しい海岸線を持つオーストラリア屈指の観光地ですが、当時は観光地には足を向けませんでした。2年前家族で旅行した時に始めて「観光客」になることができました。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか?

東京です。オーストラリアに6年以上住み、世界各地を旅行しましたが、東京が一番住みやすい場所だと実感しました。

3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか?その理由を教えてください。

私の母が二十歳の時に亡くなった母方の祖母です。子どもができたなら、母のようになりたいとずっと思っていたので、その母を育てた祖母がどんな人なのかとずっと思ってきました。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか?

方向感覚に優れていると思います。あとは運転と駐車が上手です。

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

知っている人も知らない人もいるかと思いますが、私はセカンダリーの数学教師ですが、エレメンタリーの時は算数が得意ではありませんでした。数学が得意になったのは加茂先生のおかげです。今でも加茂先生と数学について話すのを楽しんでいます。

6) あなたにとって一番の宝物は?

私の家族と私を気遣ってくれる人たちです。そして、自分が楽しめ、誇りを持てる仕事を持っていることに感謝しています。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか?その理由もお聞かせ下さい。

いつも考えていて、考えることが好きなので、「Thinker」(考える人)です。今はこの記事の質問の答えをどうすれば興味深いものにできるかを考えています。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか?

こうすればよかった、とかしなければよかった、と思ったことは数えきれないくらいありますが、「終わりよければすべてよし」という言葉を信じているので、自分がこれからすることの方により気持ちを向けたいと思っています。

9) 自分を高めるために今やっていることは?

私はいつもより良い教師、妻、そして母になれるよう努力しています。教師としては向上できていると思うのですが、その他の役割についてはまだまだ改善の余地あります。

10) ファンに一言お願いします。

いつでも私を訪ねてきてください。(もしいるなら)ファンの皆さんと会って話せるのを楽しみにしています。

図書室ニュース

新スタッフ

こんにちは！私はインド出身のHemaです。図書と実験助手として勤務しています。趣味は料理、実験、そして映画鑑賞です。また、家族との長い散歩も楽しんでいます。KISTコミュニティに参加し、皆さんと知り合えることを楽しみにしています。LMCで皆さんがより簡単に資料を探



せたり、知識を増やせるように、教科ごとに図書を(Yuri [G6B]とDevika [G6A]が示す通り)並べ替えたりすることを楽しんでいます。KIST図書室と実験室で皆さんをサポートすることを楽しみにしています。



PowerSchool

ご存知の通り、KISTではPowerSchool (KIST E-Communications No. 13)という新しい学習管理システムを試用します。すべての図書資料(ハード及びデジタル)のリンクを入れたKIST図書ページの新設もほぼ終わりました。

お子さんの学習や課題にふさわしいと思われるリンクや資料のお勧めがございましたら、どうぞMr. Timiにお知らせください。

以下を含むほぼすべてのエレメンタリー図書室及びLMCの資料がオンラインでアクセスいただけるようになりました(Moodleからもアクセスいただけます)。

エレメンタリーのリサーチ用資料



- NASA、National Geographic、Science.comなど
- Destiny Discoverの使い方(Grade 5 exhibitionのリサーチに非常に役立ちます)
- フィクション

定期購読資料-デジタル版



KISTでは学校や大学のみが購読可能な小学生から高校生を対象とした以下オンライン資料を取り揃えています。

- BrainPOP
- Britannica
- The Day



学習ブース

今期LMCをサポートしてくれたIT部門に大きな感謝を捧げます。Zoran (G8A)が校内でいつでも使えるオンラインリサーチや、カタログ閲覧、自身の課題にアクセスできる4台のサーチステーション(PC)を紹介してくれています。



チェス

LMCは毎日8:00 a.m.から開いていますが、ここでは生徒が本を読んだり、課題を行うだけでなく、忙しい一日が始まる前に友人とゆったりチェスを楽しむ場にもなっています。

Jimin (G6B)とDivyansh

(G6A)が月曜の朝一番でチェスを楽しんでいます。ScrabbleやBoggleの他、チェスの入門本も楽しめます。



サクラメダル

今年のイベントはこれまでよりもさらに充実し、盛大なものになる予定です。サクラメダル図書は皆さんがこの記事を読むころには図書室に貸し出し用に並べられている予定です。MS Teams LMC NewsまたはMS Teams EL Newsに登録・アクセスすると、図書室の新着情報を受取ることができます。たいていの新着情報には表紙の映像が載っているので、図書室で見つけやすいと思います。



エレメンタリー図書室

休みにエレメンタリー図書室は片づけられ、図書も新たに分類されました。そのためこれまでよりもさらにきれいに、使いやすくなりました！日本の本が置かれているセクションには畳が置かれ、寝転がって本を読むこともできます。また、座り心地のいいソファもあるので、是非ゆったりとくつろいで本を読んでほしいと思います！



また、近日中に最新の

Scholasticのオーダーカタログも到着予定ですので、楽しく読める素敵な本を自分用にオーダーできます。KIST生がScholastic book clubで本を購入するごとにKIST図書室にポイントが付くため、図書室の充実にも貢献できます。

KIST Libraries Team



KIST保護者会(CA)



新年度にまた皆さんにお会いできてうれしく思います！ KIST Community Association(CA)は学校のミッション、ビジョン、信条に沿った形で、直接生徒の教育環境や福利に貢献する形で、様々なイベントの企画運営、サービス、備品、教材などの提供を通して生徒、保護者、学校との協力関係を維持、サポートしています。

CAでは5つの委員会(サービス、イベント、ライブラリー、コミュニケーション、IT)で活動を行います。委員会に参加することは、新しい人々と出会う素晴らしい機会でもあり、多くの楽しみでもあり得ます。また、委員会が提供するすべての活動に毎回出席する義務もありませんが、できるだけ多くの保護者の皆さんにCA委員会に参加していただくことで、CA活動に親んでいただけたらと考えています。オンラインでの参加申し込みは[こちらから](#)お願いいたします。

コミュニケーション&コミュニティ広報委員会

IT委員会

図書委員会

サービス委員会

イベント委員会



2019-2020年度KIST CAの役員

会長



Mika Shindo

副会長



Kishi Kedia

会計



Yukie Itoyanagi

書記



Noriko Nogami

CAについてもっとよくお知りになりたい方は、ca.officers@family.kist.ed.jp からCA役員にお問い合わせください。

CA Officers



保健便り

便秘と学力の関係について

排便は毎日あることが理想です。逆に排便のない状態が3日以上または排便後も残便感がある場合を便秘と言います。

なぜ便秘になるの？

- 食生活の多様化による肉中心の食事に偏りがち→野菜の摂取不足→便秘
- 生活のリズムが不規則→排便のリズムも狂い便秘になりやすくなる。また、起床時間が遅く時間に余裕がないと朝食やトイレに行く時間が確保できず便秘傾向となる。

便秘と腸内環境がもたらす影響とは？

たかが便秘と思いがちですが、便が出なくてお腹に違和感があると集中力が下がり「学力」にも悪影響を及ぼすと小学生を対象とした調査結果*があります。脳と腸は密接に関係しており、自律神経やホルモンなどを通してお互い影響しあっています。例えば極度に緊張したとき、腹痛になることがあります。これはストレスを感じた脳が自律神経を通して腸にも影響を与えているからです。

便秘のタイプと原因について

① 食べないダイエットによる便秘:

食事量と食物繊維が不足し、便の材料が不足して便秘になる。老廃物をうまく体外に排出できず悪玉菌が増えて腸内環境が悪化する。

② 直腸性便秘:

生活習慣が原因で直腸の働きが鈍く、排泄に必要な運動が弱い。学校や外出先で便意があっても我慢してしまうとなりやすい。このタイプの便秘は排便時に痛みを伴うこともある。

③ 弛緩性便秘:

腹筋の力が低下し便を肛門方向へと押し出す腸管運動が弱く、便意があってもトイレで排便があるものの、すっきり出た感じがしない。

④ けいれん性便秘:

ストレスが原因で自律神経のバランスが乱れるタイプ。便秘と下痢を繰り返すこともある。



その他の便秘の原因: 運動不足、水分不足や薬の副作用です。

自分の便のタイプを知ってみよう(ブリストル便性状スケール)



快便による学力アップを狙うには(便秘の改善法)

規則正しい食生活を守る: 特に朝食は重要で、食事摂取により腸の動きも規則的になり排便がスムーズに。

トイレの時間を作る: 排便習慣をつけるために、胃結腸反射を利用する。食べ物が胃の中に入ると、大腸も動き始め便意を催す仕組みで「朝食後の15分」など、決まったトイレタイムを作るのも有効です。

乳酸菌を多く含む食品を摂る: 善玉菌が増え腸内環境を整えやすい。(ヨーグルト、味噌や漬物に豊富に含まれている)

食物繊維を摂る: 便の水分を増してやわらかくしてくれる働きがある。(野菜、果物、海藻やきのこ類に多い)

水分補給をこまめに: 水分不足だと便が硬くなり排便が困難になりやすく寝起きにコップ1杯の水を飲むと、腸が刺激され便意が起りやすくなる。

運動や体をつかう遊びをたっぷり: 体を動かすと腸が刺激されて活発に動くようになるため、便意が起りやすくなります。

Yukiko Yamazaki
School Nurse



参考資料:

東洋経済新報社「学力と健康と「便」の切っても切れない関係」、<https://toyokeizai.net/sp/morinaga-bifidus05/index.html> (参照2019/08/27)

大学ガイダンスニュース

2018-2019年度 合格大学と進学先

今年もKISTの卒業生は素晴らしい大学進学実績を更新しました。今年のハイライトの一部をご紹介します。

- KISTからケンブリッジ大学に初の進学者
- KISTから東京医科歯科大学医学部に初の進学者
- KISTから東京大学に3名進学
- 日本が一番人気: 14名進学
- 続いてイギリスが人気: 6名進学

2018-2019年度卒業生の合格、進学先大学リストは次のページを御覧ください。
おめでとうございます！大学での成功と将来の活躍をお祈りしています。



新任大学進学カウンセラーのご紹介

今年度、新たに**Mr. Thomas Waterfall**がチームに、加わりMrs. Okudeとともに大学進学に関する業務にあたることになりました。Mr. Thomasは複数の国で教員の経験があり、昨年まで中国、北京にある中国人民大学附属高校のIB部門大学進学リードカウンセラーでした。アメリカと日本でテンプル大学の入試担当も経験しており、UCLAのカウンセラー認定コースを修了しています。KISTへようこそ！彼がチームに加わることで、KIST生徒の大学やキャリアの進路選択の幅がさらに広がることを期待しています。Mr. Thomasのオフィスはセカンダリービルディングの三階 University Guidance 2です。どうぞお気軽にお越しください。



大学進学関係のイベント情報

秋は大学進学関係のイベントがたくさん開催されます。KISTでの説明会、東京地区での大学フェアや説明会のスケジュールや情報は[University Guidance Calendar](#)を御覧ください。

Mrs. Keiko Okude

University Guidance Counselor
keiko.okude@kist.ed.jp
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri, 10:00-5:00
University Guidance 1 (2nd floor)

Mr. Thomas Waterfall

University Guidance Counselor
thomas.waterfall@kist.ed.jp
Office hours: Mon-Fri. 8:30-5:00
University Guidance 2 (3rd floor)



卒業生大学合格実績



2018-2019年度

()=合格生徒数 | [★]=奨学金付き合格
[#]=進学または進学予定確認済み | 2019年9月2日時点のもの

オーストラリア

Australian National University (1) [1#]
University of Melbourne (3) [3#]
University of Sydney (2)

ベルギー

Howest University (1)

カナダ

McGill University (3) [1★]
University of British Columbia (3)
University of Toronto (5) [1#★]
University of Waterloo (1)
Western University (1)

フランス

ARTFX (1) [1#]
LISAA School of Design (1)

ドイツ

EU Business School (1)

香港

SCAD Hong Kong (3) [2#]
The Hong Kong University of Technology and
Science (3) [1#] [3★]

ハンガリー

University of Semmelweis, School of Medicine (1) [1#]
University of Szeged, School of Medicine (1)

日本

Doshisha University (1)
Hosei University, GIS (1) [1#]
International Christian University (ICU) (6) [1#]
Keio University, GIGA (1)
Keio University, PEARL (4) [1#]
Musashino Art University (1) [1#]
Nagoya University (1) [1#]
Osaka University (1)
Okayama University, School of Medicine (1)
Sophia University (7) [1#]
Tokyo Medical and Dental University, School of
Medicine (1) [1#]
University of Tokyo, PEAK (3) [3#]
Waseda University, School of International Liberal
Studies (6) [4#]
Waseda University, School of Political Science and
Economics (1) [1#★]
Yokohama City University, School of Medicine (1)

韓国

Sogang University (1) [1#]

オランダ

University of Amsterdam (1)

イギリス

Arts University Bournemouth (1)
Bath Spa University (1)
Birkbeck University of London (1)
Bournemouth University (1)
City University London (2) [1#]
Durham University (3)
Glasgow School of Art (1)
Goldsmiths, University of London (1)
Imperial College London (3) [1#]
King's College London (4) [1#]
London Metropolitan University (1)
London School of Economics (1) [1#]
Queen Mary, University of London (1)
Royal Holloway, University of London (2)
Teesside University (1)
University of Bath (2)
University of Birmingham (1)
University of Brighton (1)
University of Bristol (2)
University of Cambridge (1) [1#]
University College London (2)
University of Edinburgh (4)
University of Gloucestershire (1)
University of Hertfordshire (1)
University of Leeds (1)
University of Manchester (2)
University of Nottingham (2)
University of Portsmouth (1)
University of St. Andrews (1)
University of Warwick (6) [1#]

アメリカ合衆国

American University (1)
Georgia State University (1)
Hamilton College (1)
Kansas State University (1) [1#]
Lake Forest College (1) [1★]
Middlebury College (1)
New York Institute of Technology (1) [1#★]
Occidental College (1)
Pacific Lutheran University (1)
Reed College (1)
Savannah College of Arts and Design (3)
UC Merced (1)
UC Riverside (2)
UC Santa Barbara (1)
UC Santa Cruz (1) [1#]
University of Cincinnati (1)
University of Illinois, Chicago (2) [1★]
University of Kansas (2)
University of Michigan (1) [1#]
University of the Pacific (1)
University of San Francisco (2)
University of South Carolina (2) [1★]
University of Utah (1)

卒業生の声—1

TaiseiはKISTの「2014年度卒業生」です。University of British Columbiaで人類学を専攻、文学士の学位を取得し、現在は日本の大手新聞社に勤務しています。

海外の大学で4年間を過ごした後で言えるのは、この経験が今の自分を形作ったということです。当時は思いもよらなかったのですが、4年間、新たな考えに触れていたことで、日本出身のIB生がアジアで最も大きな新聞社の正記者に成長する事が出来たのです。

2014年に、大学は海外で過ごすことと決め、太平洋を渡ってカナダ赴きました。そして壮大な山脈と森に囲まれた美しい海辺の町、バンクーバーの、これまで見たこともない多様なコミュニティにたどりついたのです。全てが自分にとって、新しく、新鮮なものでした。でも、この経験の欠点は、自分が学ぶことになる大学や住むことになる街について何も知らず、初めてのキャンパスで右も左もわからなかった事です。幸いなことに、同じ問題を抱えた留学生に出会い、すぐにこの混乱がcausing 周囲をよく知ろうとする好奇心や熱意に変わりました。将来、このような状況におちいるKIST生へのアドバイスは、できるだけ多くの背景を持った人たちと話し、出来るだけ多くの新たな場所を訪ね、直面する全ての事に柔軟で前向きに対応する事です。そうすれば、私がそうであったように、想像もしなかった経験をする事ができるでしょう。

柔軟で前向きな態度を維持する事で、私は幸運にも自分を鼓舞してくれる人物との運命的な出会いを果たす事ができました。その人物は州の北部のひなびた漁村出身の先住民族で、苦学の末に自分が学ぶ大学の教授になった方です。これは私が「先住民族」の方との初めての出会いで、彼を通してきたアメリカの先住民族と呼ばれる人々に関して以下に無知であり、彼らがどのような困難に直面しているのかに始めて気付かされました。この出会いで北アメリカの先住民族についてもっと調べようという気持ちがわき、このテーマへの関心が深まりました。この偶然の出会いから自分がもはや(多くの留学生が夢見る学位である)



Taisei(左)と友人。アメリカのデズバレーで

国際関係を専攻する事を望んでいないと気付かされ、自分の新たな情熱の向かう先である人類学部への転向を決意したのでした。

この学部での4年間は私を思いもよらなかったところに導いてくれました。ある時は、先住民のコミュニティの伝統的な土地を横切るパイプライン建設抗議運動に参加しました。またある時は先住民族のトーテムポール彫刻家やその若い弟子たちと環境問題について論じました。これら経験から学んだのは、世界には多くの人が見過ごしている困難や苦しみに満ちているということです。一度先住民について関心を抱くと、どこにいても先住民の若者の高い自殺率や、収入格差、先住民族への差別が避けられないテーマとして論じられていますが、これらは私がこれまでは全く気付かずにいたことでした。これらのテーマについて学ぶことで自分の中でこれらの問題についての意識が深まりましたが、これら問題について世間の意識を高めることをどのように自分が情熱を向けられる職業に結び付けられるかについてはまだ決めかねていました。でも、このことで誰にアドバイスを求めればいいのかはわかっていました。大学生生活の始めに私を触発してくれた人物です。彼は大学教授(実は彼のコミュニティで大学の学位を取得した初の人物でした)であるだけではなく、民族誌の素晴らしい作家で、更にはドキュメンタリーユニットのリーダーでもあるのです。自分が属する民族が直面している困難を社会に伝えることがかれの情熱、キャリア、そしてライフワークでもあるのです。彼と話すことで、私自身も研究でのキャリアよりも、社会が直面する問題について積極的に発信していきたいのだと気付かされました。

この目標を達成するため、ジャーナリストになることを決意しました。大学生生活の終わりが近づいてきていたので、日本の新聞社や通信社に対し、就職活動を始めました。自分の日本語でのライティングスキルにはある程度の自信があり、日本のメディアでしっかりしたキャリアパスを築ける良い職に就けると考えていました。しかし、この時期は私がこれまで経験した中で最も厳しい試験の時期となりました。私の就職活動は日本のメディアやジャーナリストと全くコネクションのない中で、ゼロからのスタートでした。面接では多くの会社が私の言語能力に疑いを抱き、いくつかの会社では私の志望を真剣に取り合ってくれませんでした。それでも、面接で自身の情熱を語り始める



先住民のアーティスト、Jim Hartによるトーテムポールを背景にしたTaiseiの大学の卒業式

と、風向きが変わり始めました。会社や面接官が最初に持った疑いや懸念を翻すのは大変でしたが、慎重にかつ忍耐強く最初のハードルを乗り越えると彼らの関心をひくことができるようになりました。

関心をひくことができた企業の一つに日本の通信社である共同通信がありました。やっと、自身の情熱を向けられる仕事を得られたことに非常に興奮しました。そして、今、私は共同通信社の九州支部の記者として勤務し、日々ニュースを追っています。私の仕事には忍耐力と細心さが求められますが、同時に厳しい締め切りを守るために素早く行わなければなりません。24時間いつでもニュースとなる事件が起こる事に備えていなければなりません。また時には、心が痛む凄惨な状況に立ち会わなければならないこともあります。非常に厳しく見え、実際に大変な仕事ですが、それでも私はこの仕事を心から愛しています。

ジャーナリズムの中心はリアルタイムで特定の場所で起きている社会と人々の真実を伝えることだと思っています。これは世界に真実を伝えるのに必要な記録です。まだ研修中の身であるため、ある出来事の実態を正確に伝えるのに最適な方法を学んでいるところです。そしていつか、私が心にかけている重要な出来事について国内に、そして最終的には国際的に伝えたいと願っています。今、私は自分の夢を心から追うことができている。そして、私と同じようなキャリアを追い求めるかもしれない未来のKIST生にいくつか助言をしたいと思います。まず、大学に出願するときには既にその大学に進学した人に話を聞くこと。そうすれば、志望している大学コミュニティについて良く知ることができます。また、出願時には大学にあなたの成し遂げたことを全て伝えること、DPで学習したということは非常に重要ですが、そのうえであなたが独自に学習以外に行ったことは必ず願書に彩りを添えます。最後に、学生である間に誰の前でも誇りと自信と知識をもって語れ、情熱を持てる物を見つけてください。これこそがあなたの強み、そして将来のキャリアへの鍵となるでしょう。

Taisei
KIST "Class of 2015"

卒業生の声—2

NinaはKISTの2017年度卒業生で、現在ワシントンD.C.にあるジョージ・ワシントン大学にて国際関係(主にアジアと安全保障関連の)と歴史を専攻しています。

こんにちは！私は2017年度卒業生のNinaです。

大学の専攻の中に、国際学部がある知った時、自分にぴったりの学部だと思いました。私はもともと世界史を勉強するのが好きで、将来学際的で国際的な教育を受けたかったんです。なので、自分が熱意のある分野に専念できるジョージ・ワシントン大学(以下GW)のオリオット国際情勢研究科への入学を決意しました。

晴れて入学でき、期待に胸をふくらませながら念願の国際情勢学の授業を受けたのですが、他の生徒たちが様々な社会問題や平和条約を網羅していて、私より遥かに自信に満ちた姿を見ると、高鳴る気持ちはすぐさま不安へと変わりました。それから私は自信を無くし、自分の選択が正しかったのか不安になりました。

しばらくの間、新しい環境によるストレスと居心地の悪さを感じていたので、気分転換にキャンパス周辺の事を調べたりしました。GWがワシントン中心部にあることから、数々の駐在員や学者による講演やパネルディスカッションにキャンパス内で参加することが出来ることを知りました。講義を詳しく理解するために教授やアシスタントからoffice hours(教授室で講義外でも教授などから学習のサポートを受けたり、質問をできる場)で一对一での学習支援も受けました。そこで



NinaとPepper(AIロボット)。ワシントンで開催されたSasakawa USAのイベントにて

は教授と授業内容に関する質問や、論文内容に関連する話をしました。Office hoursを通じて講義内容を深く理解できただけでなく、自分は心から国際情勢が好きだということを確認しました。

二年次にはすっかり学習環境に慣れ、日米関係強化に努めるシンクタンクのSasakawa USAにてパートタイム研修職員として働くことになりました。私はそこで多くの日米関係に精通している学者や専門家と出会いました。協会のSNS更新からイベントで使われるPepper(AIロボット)の世話まで色々な仕事にふれることができました。このインターシップを通じてワシントンのシンクタンクがどのように機能しているかや、研究職に就くことの意味を知りました。

国際情勢の世界に入るには、インターシップに加え論文発表も重要です。以前、私は数カ月にわたって沖縄県庁主催のエッセイコンテストの資料集めを通じて、昔の沖縄の刊行物や小説を沢山読みました。冬休みに執筆活動に費やした結果、見事入賞し、全額負担の沖縄旅行を賞品として頂くことができました！私が書いた沖縄の日系アメリカ人や日系多(異)国籍人を題材にしたエッセイ(原題: "The Okinawan Amerasian Identity: A Vanguard for Japanese Multinationals")は現在沖縄県庁の公式サイトにて読むことができます(英語版のみとなります)。

今年の夏休みは何か新しいこと挑戦したかったです。以前からアメリカ議会図書館には強い興味を持っていたので、政府で研修をすればワシントンの新たな側面を知れるのではないかを思いました。出願手続きは手間がかかりましたが、その結果議会図書館内のデジタル戦略総局(Digital strategy directorate)にて10週間の研修をさせて頂けることになりました。この研修では(図書館の)研究室、クラウドソーシングや実験などの様々なイベントの手伝いをしました。研修を通じて、どのようにしてIT技術と歴史が融合しているのを見ることができました。更に、「ディスプレイデー」では他の研修員たちと共に自分が取り組んでいるプロジェクトの発表もしました。



国会図書館にてディスプレイデーのプレゼン資料と共に

様々な専門的な体験に加えて、私の大学生活でのハイライトといえば友達を作りとGWの日本文化協会(JCA、Japanese Cultural Association)のイベント運営です。JCAでは日本で育ったり、日本語を学ぶ生徒たちと出会うことができました。この写真は"JapanFest"というワシントンで毎年開催されるアジア太平洋島民追悼月間で撮影されたものです。入学当初は友人が出来ず孤独でしたが、JCAに入ったことで自分と似た生い立ちの生徒と出会うことが出来ました。これから短期や長期の海外留学を考えている方は各学校の日本文化協会に入ることを強く勧めます！



Nina(上段中央)とJCA理事会員。JapanFestにて

母国である日本を離れ、競争の激しいワシントンに慣れるには時間がかかりましたが、今となっては必要だったのだと思います。仕事の応募や研究に専念することなどを通じて常に自分の限界に挑戦することによって人として成長できるのだと痛感しました。様々な経験を通して、国際情勢は自分に合っているのだと再び認識できました。ワシントンではその分野に関連する数々の体験ができるので、自分を更に成長させることができます。どんなに高い壁も常に自分を高めへと連れていってくれるので、諦めず乗り越えました。チャレンジ精神を持ち続け、私は秋から上海の東華大学にて新生活を始めます！

Nina
KIST "Class of 2017"

This article was translated by Uri (G11A).
この記事は G11A Uri が翻訳しました。